



編集発行責任者 飯田 誠

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111(代表)

URL:<http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/>

INDEX

01. 日常的に取り組む感染対策

02. 日常的に取り組む感染対策

03. 診療科紹介(呼吸器内科)

04. 診療科紹介(産婦人科)、外来食堂営業再開のご案内

◆◆◆ 日常的に取り組む感染対策 ◆◆◆

2

2020年に世界的な流行が始まり、現在も続いている新型コロナウイルス感染症により、咳やくしゃみなどの飛沫が原因となる感染症には、手指衛生やマスクの着用が有効な対策であるという認識が広く普及しました。病院などの医療機関だけでなく、店舗などさまざまな場所に手指消毒剤が設置され、出入りの際には消毒を行うことが一般的になっています。こうした対策は新型コロナウイルス感染症の流行によって始まったものではなく、2009年の新型インフルエンザの世界的流行時にもすでに実施されており、各所に消毒剤が設置されていました。

しかし、「喉元過ぎれば熱さを忘れる」という言葉の通り、流行が落ち着くと、消毒剤が設置されていてもホコリをかぶったまま放置され、むしろ使用することで手が汚れてしまうのではないかとと思われる場面も見受けられるようになりました。

感染症対策はメディアで大々的に取り上げられることでその重要性が広く認識され、社会全体の意識も高まりますが、関心が薄れるとともに意識も低下してしまう傾向があります。新型コロナウイルス感染症流行初期のような厳格な隔離体制や行動制限といった極端な対策ではなく、日常的に継続できる予防策について、以下でご紹介します。



●手を清潔に保ちましょう

感染対策において、最も基本的で効果的とされるのが「手を清潔に保つこと」です。家庭での手洗いは、医療機関で行われるアルコール消毒よりも、石鹸と流水による洗浄が一般的です。



手洗いの際に注意すべきポイントは以下の3点です

- ①石鹸をよく泡立てること
- ②手全体に泡をまんべんなく行き渡らせること
- ③泡を十分に洗い流すこと

また、手を清潔に保つためには、手荒れを防ぐことも重要です。頻繁な手洗いや家事での洗剤使用により、皮膚の油分が失われて手荒れが起こりやすくなります。手荒れがあると、荒れた皮膚に菌やウイルスが付着しやすくなり、せっかく手を洗っても清潔が保てないことがあります。休憩時や就寝前には保湿剤をしっかり塗り、手のケアを心がけましょう。

●当院の手指衛生への取り組み

当院では、感染対策の評価指標として「1人の患者に対して1日あたり何回手指衛生が行われているか」というデータを算出しています。各部署の感染対策担当看護師はその結果を確認し、自部署の対策をさらに向上させるために管理者と協力しながら取り組み、患者にとって安全な医療環境の構築に努めています。

●咳エチケットを日常に

新型コロナウイルス感染症の流行以降、マスク着用が日常化していましたが、2023年3月に厚生労働省より「マスク着用は個人の判断に任せる」との通達が出されて以降、徐々にマスクを外す生活が戻ってきました。

その中で気になるのは、電車内や商業施設などの公共の場で、口や鼻を押さえずに咳やくしゃみをする人が見受けられることです。

新型コロナウイルス感染症の流行以前から「咳エチケット」という感染予防策がありました。飛沫には菌やウイルスが含まれている可能性があるため、咳やくしゃみをする際には口や鼻を押さえる、またはマスクを着用することが推奨されています。当院でもポスターを掲示していますので、ご来院の際にはぜひご確認ください。

昨年からは麻疹、百日咳、マイコプラズマ肺炎、伝染性紅斑など、飛沫による感染症の患者が増加しています。これらの感染症は、基礎疾患のある方、高齢者、妊婦、小児などが罹患すると重症化する可能性があり、胎児に影響を及ぼす場合もあります。

自分自身を守るだけでなく、大切な人を守るためにも、今回ご紹介した予防策を日常的に継続していきましょう。(感染制御室 長谷部 恵子)

★★★★★ 診療科紹介/呼吸器内科 ★★★★★

2

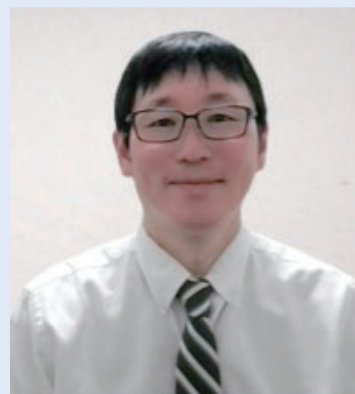
2021年4月より、呼吸器内科の診療部長を拝命いたしました 関 好孝です。私は当院の前身である青戸病院にて初期研修を行い、さまざまな医療機関での経験を経て、ふたたびこの葛飾の地に戻ってまいりました。地域に根ざした医療を大切にし、今後も近隣の医療機関と連携しながら、皆さまに信頼される診療を提供してまいります。

当院呼吸器内科では、肺や気道など呼吸に関わる病気を専門に診療しています。これまで新型コロナウイルス感染症に対しても、保健所からの要請に応じて地域の感染対策に尽力してまいりました。現在も引き続き、肺炎や喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）などの感染症・慢性疾患について、必要に応じて検査や入院治療も行っております。当院において特に力を入れているのが肺がんの診療です。当科には、がん薬物療法専門医、呼吸器内科専門医、がん治療機構認定医などが在籍し、外来から検査入院、抗がん剤治療から緩和ケアに至るまで一貫した診療体制を整えています。肺がん治療では、古典的な抗がん剤や放射線治療だけでなく、近年進歩が著しい「免疫チェックポイント阻害薬」や「分子標的治療薬」など、最新の治療法も取り入れています。

免疫チェックポイント阻害薬は、患者さんご自身の免疫の力を活かしてがんと闘う治療法です。従来の抗がん剤とは異なり、副作用の出方も異なりますが、一部の患者さんではがんの進行を長期間抑えられることもあり、大きな希望となっています。一方、分子標的治療薬は、がん細胞に特有の遺伝子変異や異常なタンパク質をピンポイントで狙い撃ちする治療法です。EGFR遺伝子変異やALK融合遺伝子といった特定の変化が見つかった場合に使用され、効果的かつ比較的副作用が少ないことが特徴です。これらの治療法を選択するためには、まずは正確な診断と、遺伝子検査などの精密な検査が必要となります。

当院では、診断から治療、その後の生活支援までをトータルでサポートできる体制を整えております。医師をはじめ、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、医療相談員など、多職種が連携して患者さんを支えてまいります。

呼吸に関する不安や症状がある方におきましては、医療機関からの経路でご紹介いただければ速やかに対応させていただきます。地域の皆さまに信頼され、安心して受診いただける呼吸器内科を目指して、日々努力してまいります。



呼吸器内科
診療部長

関 好孝



◆◆◆ 診療科紹介/産婦人科 ◆◆◆ 診療部長 斎藤元章 ◆◆◆

婦

人科疾患に関しまして、まず良性疾患については、症例に応じて腹腔鏡手術を積極的に取り入れ、治療の選択肢の一つとして可能な範囲でご提示しております。一方、婦人科悪性腫瘍につきましては、進行がん、再発がんを含めて集学的治療を目指しており、診断から治療まで一貫した管理を行っています。初期の子宮体癌については、保険適応のある範囲で腹腔鏡手術を導入しております。

周産期の診療にあたっては、助産師外来が開設され5年が経過いたしました。よりきめ細かい指導を行い、合併症を有する妊娠については他科と連携して管理を行っております。全ての合併症に対応することはできませんが、最善の医療を提供できるよう、地域の医療機関とも連携をとりながら診療にあたっております。



診療実績 (2024年度)

・分娩件数:216件 ・手術件数:532件(悪性腫瘍手術:78件)

腹腔鏡下子宮体癌手術の認可施設 / 婦人科悪性腫瘍専門医研修施設

腹腔鏡下手術技術認定医研修施設 / 婦人科悪性腫瘍研究機構臨床研究参加施設

◆◆◆◆◆ 外来食堂営業再開のご案内 ◆◆◆◆◆

2

025年5月7日(水)より、「旬の定食 八十八(やとや)」による外来食堂の営業を再開いたしました。豊富なメニューを用意しておりますので、是非ご利用ください。

営業時間

- 月曜日～金曜日 11時～14時(ラストオーダー13時30分)
- 土、日、祝日、大学記念日(5月1日、10月第2土曜日)、
- 年末年始(12月29日～1月3日)は休業

メニュー (一部)

- 幕の内定食 ¥1,000(税込)
- 肉定食 ¥900(税込) 等



幕の内定食 ¥1,000(税込)



肉定食 ¥900(税込)